



審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

2 自己紹介

委員長：今日の議題は平成30年度の事業報告と、それ以降の進捗状況についてこれからどのように展開していけば良いかについて議論していく。

3 議事

議題（1）第2期岩倉市地域福祉計画の平成30年度事業報告について

資料2を用い、事務局から説明がされた。

委員長：一年目でいろいろスタートを切るのは大変だったと思う。校区ごとに見ると、総論は一緒だが、それぞれ具体的な取組として、災害をキーワードにしたつながりづくり、サロンという場所づくり、あるいはマナーについてみんなで共有を図ったりと、とりあえずとにかく顔の見える地域を作ろうという取組が始まった。5校区それぞれ特徴が出ているのではないか。委員で関わった上での感想などあるか。

委員：平成30年度の南小校区の会合に数回参加した。まずは集まって地域の事業の情報交換がベースであったが、大きなテーマとして学校区全体として防災に強い地域を作っていくことが共通認識であり議論の中心だった。長い目で議論していくことになるだろう。多くの人と校区内で地道な議論ができる場所ができたので有効に活用していくという意味では、一部の人の会議であってはならない。幅広い地域の人に参加してその地域の共通の課題を議論し、整理していくことが必要だ。そんな段階の1年間ではなかったか。

委員：参加はしていない。どういう人が参加しているのか、どう声を掛けているのか。知り合いも案内が届いたと話していた。

委員長：検討事項として残しておく。

委員：第1期から参加している。第1期と比べると区長が参加しており、積極的にまちを変えよう、何とかしようという意欲が出てきたように見える。今までは民生委員と声掛けした人だけで動いていたが、地元をしっかり密着してきたように感じる。第2期では地元で会合したりして、ますます区長が出ざるを得ないような感じになり嬉しく思っている。前区長からも現区長に参加を促してくれている。

委員：市民会議を知らない人が多いので啓発をしないといけない。5月のフォーラム後、北小の会議に出た。テーマが見守りと学校との連携だったが、行政もはっきりしたことも言えずにいた。学校側にどういう希望があるのかも分からず、集まった人が課題を作っただけという感じだった。進行もなかなか進まない。先日、第2回目があったようだが、要望事項に対して学校側と区長や民生委員の交わりがうまくいっていないのではないかと。まず地元からこういうことをやりましようと言いつつ事はない。行政が声掛けしてやらないと進まない。地区でやるときにはもっと細かく、学校にこうした問題があるので検討しましょうなど、ピラを各区に配らないことには集まらないので、改善すべきではないか。5月のフォーラムで事例紹介していた方のような人材はなかなかいない。地元サロンも顔ぶれは一緒としか聞いていない。大々的に行政が音頭を取ってやらないと意味がない。市民会議はいい題材だが、ざっくばらんに集まってやってみようと区民がやると、それではお前がやれと言われてしまうので進まない。行政が働き掛

けないと名前だけで終わってしまう。

委員：直接関わってはいないが、一気に簡単には行かず難しいだろうとは思う。

委員：社協の支援を受け曾野の民生委員と区長が今年度からサロンを開始した。5月のフォーラムの事例発表に触発され、少しずつ形が出来ている。

委員：今年度、五条川小部会に2回出た。参加者は総論は賛成、各論になると尻込みする。誰が音頭を取るかとなると途端に黙る。市民会議の活動にあたり、新たに何かを作るというのはすごく無駄だと思う。それぞれのまちで仕組みがあるものをうまくリンクさせたり、拡大したりする方向にもっていった方がよい。ただそれを誰がやるかという沈黙してしまうので具体論に展開しづらい。展開していくとなったときに、行政が雰囲気をもっていかないと進まない。3、4回目以降、段々行き詰ってくるのではないかと。

委員：五条川小校区は、コミュニティがあり、盆踊りや親子スポーツデーなど感心して見ていた。他の地区にはない良い雰囲気がある。

委員：五条川校区では盆踊り等を実施しているので、各年度で区長は顔見知りで、3年任期の民生委員も同様であり、点と点で線としては結ばれている。それを面にしたり立体的にしたりしていくことが課題である。災害時は、区長同士顔見知りなので連絡さえつけば何とかなるという形にはなっている。コミュニティの活動で得られた繋がりは大きな財産であり、校区で活動する上での基盤は全くないという訳ではない。どう強くしていくのかという事が課題だ。ただ支会長や、区長の時に何かできるかという忙しく難しいのが悩みである。

委員：五条川小校区はコミュニティの会長職が順に回っていき、うまく連携が取れている。西市では昭和会が主となって盆踊りをする。毎月会合もしているが、地区のためという感じではなく、時間も短くなった。音頭をとるとやらなければいけなくなるので難しい。生駒市の事例では行政が旗振りをし、地域福祉が発展をしたと聞いた。市民福祉はいい題材であるが、地域の属性、地域の集まりの中で進まない現状がある。

委員長：地域づくりはエネルギーを持続していくことが肝要かと思う。あまり爆発もせず収縮もせずなるべく長く飽きが来ないように時間をかけて、いろんな角度からいろいろ検討していくのが大事だ。ただ、地域の中でリーダーとして自分たちの問題を自分たちで担っていくという市民が一人でも出てこれば願ったり叶ったりである。市民会議を通して皆さんが地域の中でリーダーとして活躍していくにはどんなことが大事で、どんなスキルを持っているべきか研修、勉強できる会を企画していく必要がある。もうひとつは先ほど山口委員からあったように、地域の中で市民会議にどういった方々が出ているのかが見えづらい。どんな声掛けをしていくのが肝心である。現在はどんな手順で声掛けをしているのか。

事務局：第1期計画からの継続に加え、第2期では必ず区長と民生委員には案内している。計画策定時、地域のことを考えるのに区長がいないと議論が進まないという声を受けた反省もありそうしている。プラスアルファで、地域の方、フォーラムの参加者などに声を掛けている。新たな人にも参加してもらいたい。

委員長：なかなか全市民的にという力はないので、どちらかというと地域の役職に就いている方に声掛けをしている。また、これまで開催したフォーラムの参加者に声を掛けているのが現状のようだ。その他に方法はあるか。祭りにビラを配ることも難しいか。ホームページで呼びかけをするのも手かと思う。

委員：この委員会の委員を使うのもよいのでは。ボランティアや子ども会にもネットワークがあるので、そこから発信するのも良い方法ではないか。お知らせがあれば参加する可能性は高いのではないか。区長は、1年間忙しく参加だけでも大変だと思うが、地域の現状を良く知っているので、区長経験者に参加してもらい頼りにするのはいいのでは。今の区長とのネットワークも取りやすいのではないか。

委員長：区長OB会などもあればよいかもしれない。

ここまで、まず一つは、平成30年度の事業報告を伺いながら、声の掛け方をどうするか、また課題を解決に結びつける道筋をどう作り示すのか、市民会議を中心としながらどのようなプロセスを踏んでいくのかというレイアウトを作ってみないといけない。ただ平成30年度に限れば、市民会議が学区ごとに成立すること自体が懸案事項だったが、立ち上がったことは評価しなければいけない。人数、メンバー、進め方の問題はあるかと思うが、第2期計画はステップアップして校区ごととしており、地域の皆さんからすればハードルが高い。校区ごとの会議において特徴に応じて課題整理する情報交換の場が小地域の中にあることが大事であり、それをここで作ろうということはクリアできたかと思っている。

それから、いわくらあんしんねつについては、地道に積み上げてきており、専門職の顔の見える連携は作られつつあるのかという気がしている。

## (2) 第2期岩倉市地域福祉計画の進捗について

資料3を用い、事務局から説明がされた。

委員長：新旧年度で重複部分もあるが、いわくら福祉市民会議がどのように継続しているかということの検証になる。先程の指摘にあったように市民会議に集まった方々で運営していくのはまだ難しいとの想定もあり、主担当中心の運営から広がりを持たすために、校区ごとに担当者を張り付けた。本当ならいろんな職員が交代で対応できれば、職員が地域を知る非常にいいチャンスになるはずだが、今年度は障がい福祉グループと社会福祉協議会でスタートしている。それぞれの校区ごとで会議を開き、少しずつ今後の動きが出てきた。

続いて、地域福祉推進フォーラムといわくらあんしんねつの報告に加え、庁内連携の推進の説明があった。地域福祉計画には福祉の担当者だけが携わっている訳ではないので、そのバックアップグループとして庁内連携会議、担当レベル会議を組織できないかという事で検討を進めている。時期としては、社会福祉法の改正の中で相談の総合窓口あるいは総合相談支援という体制を市レベルで作っていく方向性がある事も含めて、庁内連携会議を立ち上げようとしているという報告であった。ここまでいかがか。今進んでいるところなのでこれで進めていただいて、年度末に報告をいただくよう進めて良いか。

委員：異議なし。

資料4を用い、事務局から説明がされた。

委員長：リーダーシップを発揮するためにはどのようなスキルを持っていたら良いかという話題があったが、7月に実施した地域リーダー協働講演会とはどのような内容であったか。

事務局：協働部門の主催であった。なぜ地域主体で活動に取り組まなければならないのかを、人口減少社会の背景を中心に説明をしていただいた。

委員：人口減少ともうひとつの問題は定年制の延長だった。区の役員のやり手がない、話を持って行っても断られる。そういうときどういう対策が考えられるか。講師がおっしゃったのは、まちの業務、区の業務を棚卸してはどうか。たくさん業務があり過ぎてどれを取捨選択するのか。また役員、一般区民がどうしたら参加してもらえるか。どうしたら役員の負担が軽くなるか。行事に参加した区民に何かを差し上げるか。あるいは区の行事を細分化し、業務ごとに協力していただくか。例えば盆踊りのこの業務は助けてもらう代わりにお土産を渡すなど。区の役員だけが全部やるのではなく、区民にも参加してもらえるような工夫をリーダーとしては考えること。考えて導き出し、いいことをどんどん取り入れてやってくださいというのが印象であった。そういう問題意識を持って聴いていた。

委員長：私がイメージする研修の場とは少し違う。地域福祉計画は岩倉市に住む人、仕事をする人が、地域自体にもっと愛着を持ち、ここに生まれて住んで働いて良かったという地域づくりをしていくために、自分たちができることをするという事がもっと楽しくならないと、まさに作っていく地域が楽しくならないであろう。そういう意味では何かをせねばならないというものでは必ずしもない。従来の行政計画とは随分違っていて、行きつ戻りつで見える成果が必ずしもはっきりと出るわけではない。ただそこに関わったり参加したりした人が自分の意見を言える場所あるいは自分が行動できる機会を持ちながら、その地域にコミットしていくというものが作れたらいい。そういう動きをするときに一人の声に引っ張られるわけではないし、かといって誰かがリーダーシップを取らないと動かないというのものもある。そういうことが段々分かってきた中でせつかなので会議の参加者が、まさに地域のリーダー的な役割を果たしていただければよい。そうするとこのリーダーのもとにいろんな人が集まりながら、地域ができていくのではなかろうか。そんなことを考えたときに、そういうリーダーになるべくスキルって何だろうという話だと思う。分かりにくいのが地域福祉計画であり、校区それぞれに議論が違うということもある。何かしなければならぬということであれば、上位計画で校区は動くかもしれないが、そうではない仕組みを作っているのだから、第1期計画から7年になるがなかなか進まない部分もある。

委員：人を引き込んでいくには情熱、熱意を持った人がひとりいて、その人と熱意を共有できる人が二人目について、その二人が同じように仲間を引っ張ってくるというような形でないと、多分うまくいかない。まさしくそういう人がリーダーにならないと絵に描いた餅にしかならない。そういう人をどうやって見つけてくるかが難しい。

委員長：そういう気持ちにどうやったらなってもらえるか。

委員：かつてはそういう人が地区に一人はいた。そういう人がいなくなると進まない。区の役員も今はやり手がないと連続してやる人もいる。市議員が旗振りをやらないと進まないのではと思う。家系でリーダー的な存在もあったが今はそれもない。

委員長：年間スケジュールで進めていくわけだが、焦らずじっくりと取り組んでいけばいいと思う。校区連絡会を作っておく必要性があり、計画書にも書いてある。事務局からは10月より後に開催したいとしているがよいか。5つの校区会議が速度や内容はいろいろだが、立ち上がっているのだから、担当者を中心にしながら検討を進めていってもらえればと思う。

委員：否定するわけではないが10月という目標に向かって皆さんが動き、情報交換して刺激を受け

るという事も大切だと思う。それぞれ計画されているので適当な時期ではないか。

委員：10月は理想的だが、まだ実績を言えるところは少ないので、目標や方針、コンセプトのお話くらいはできるのではないか。

委員：それぞれの校区で9月までに3回の会議を実施する予定である。校区連絡会は10月に予定していたが、事務局としてはもう1、2回会議をすると、動きが明確になってきて自分たちの言葉で情報交換がしやすいのではないかと思うので、12月くらいが妥当ではないか。

委員長：今の説明だと年内開催を目途に、それぞれの校区が実績ではなく、こういう取組をこういう形で検討していて、こういう課題があるという事の情報交換を今年度はするという事で進めていきたい。後はホームページの問題は早急にやっていただきたい。また市民会議への参加は歓迎するのでどんどんお誘いいただきたい。確かに区長には負担をかけていると思うが期待している旨お伝えしてほしい。

### 3 その他

特になし

委員長：他に無ければ、会議を終了する。